

会 議 録

件 名	第1回宇治市特別職報酬等審議会
日 時	令和2年10月8日(木) 9:30~11:20
場 所	本庁舎 7階第2応接室
出席者	各委員・事務局職員

【概要】

- 1 委嘱状交付
- 2 会長互選、会長職務代理指名
- 3 市長からの諮問
- 4 議事
 - (1) 審議の公開・非公開について
 - (2) 令和2年度審議予定について
 - (3) 資料説明について

【内容】

- 1 委嘱状交付
山本市長から委嘱状の交付を行う。

- 2 会長互選、会長職務代理指名
(会長)
各委員の互選により、小長谷敦子委員に決定
(職務代理)
小長谷会長の指名により、坂下弘親委員に決定

- 3 市長からの諮問
諮問書別添

市長挨拶(抜粋)

本市の令和元年度の普通会計の決算状況については、人件費、扶助費及び公債費からなる義務的経費は、子育て支援施設等利用給付費補助事業の影響などにより、前年度から8.3億円増加の365億円となる見込みであり、今後も扶助費の増加が見込まれる。財政の弾力性を示す財政指標である経常収支比率は、財政健全化推進プランにおける人件費や既存事業の見直しなどの取組効果により、一昨年から一定の減少は見られるものの、前年度の95.8%から0.6ポイント増加し、96.4%となり、依然として90%を超える水準にあり、財政構造の硬直化は続いている。このような厳しい状況の中、特別職の責任の度合いは、一段と高まってきているものと認識している。

今年度の審議においても、忌憚のないご意見、ご検討を賜りますようお願いしたい。

- 4 議事

- (1) 審議の公開・非公開について

(委員) 昨年までの議論のとおり、「宇治市審議会等の会議の公開に関する指針」の第3(2)を主な理由に、審議は非公開とし、終了後、議事録を公開するのが望ましい。

委員の意見を踏まえ、審議は非公開とし、議事録(要旨・発言者の氏名非公開)及び資料を答申後に公開することに決定した。

(裏面に続く)

(2) 令和 2 年度審議予定について

(事務局説明)

全体で 4 回程度の審議を行い、11 月中旬に答申をいただく予定である。

新型コロナウイルス感染症の影響で人事院勧告が例年より遅れ、昨日(10/7) 期末勤勉手当について出たところであり、京都府人事委員会勧告もずれこむ可能性がある。第 2 回開催の 10/22 時点で京都府人事委員会勧告が出ているか不透明のため、審議会開催の有無については様子を見て調整する。事務局側から追って連絡をさせていただく予定。

(3) 資料説明

事務局より、①令和元年度宇治市普通会計決算、②新型コロナウイルス感染症に対する対応策にかかる補正予算、③京都府内・類似団体の特別職等の報酬の状況等について、資料集をもとに説明を行う。

(委員)「財政構造の硬直化」という議論は以前からあるが、投資的経費を使っていないのではないか。扶助費等の義務的経費だけ使って、将来に向けた投資をせずに市を運営している印象である。一方で、人口ビジョンなど新しい施策もいくつか出てきているように思うが、それがどういう風に反映されているのか。

(事務局) 今手元に資料がないので、令和元年度決算と令和 2 年度予算のなかでどのような施策に取り組んできたかについては、次回に説明をさせていただきたい。

(委員) この議論は以前からずっとあると思う。宇治市として、投資的経費に相当する必要なものは出していこうという方向性であれば、財務関連資料に数字として表れてくるはずだが、例年と比較して大きな変化がないように思う。それはなぜか。

(事務局) 投資的経費として大きな建物を建てる等の大規模な事業があげられるが、修繕で済むものや、利用の仕方を変えていくような取組をしているので大きな数字としては表れていない。例えば、公民館を社会教育だけでなくいろんな人に利用してもらえるようにするというような方向性も出ている。今ある施設を全て維持していくのは将来的には難しい。これから新しく建設する施設については、どのような形にするか検討段階であるので事業費としてはまだ出ていない。

(委員) 特別会計の部分で、水道その他のライフライン関係の整備などはどうなっているか。連結で見ても赤字が出ていないということは、投資的経費が発生していないということか。計画はあるけれども現段階では数字があがっていないだけなのか。

(事務局) 下水道は 96-97% 程度の普及率であり、整備事業費としては下がっていく見込みである。また、下水道整備事業は市債を発行して行っており、公債費の一部を一般会計から出している。そのため、下水道事業会計で整備によって赤字が出ることは構造的にない。水道は水道ビジョンの見直しや料金改定を行って 4 年で 48 億の投資計画を着々と進めている。水道事業会計も整備に係る費用は市債を発行するため赤字は出ない。ただ、見た目は赤字ではないが、老朽化が進んでいる施設も多く、今後の 10 年をどのように取り組んでいくのかについては、新しい水道ビジョン策定の中で検討しているところである。

(委員) 新型コロナウイルス感染症対策の状況はどうか。

(事務局) 国からの財源が約 17 億円、財政調整基金からも 3 億円を繰り入れて、9 月までに補正予算を 5 回行い、独自施策を行っている。国からの財源は当初想定していたよりもいろんなものに使えることが判明し、積極的に活用している。

(委員) 宇治市の人口ビジョンでは社会増減 0 としているが、それに対応する施策は何か。

(事務局) 基本的には子育て対策。医療費無償化や減免、また、新型コロナウイルス感染症対策も兼ねているが、全小中学校生にタブレット端末を付与し、リモートで授業ができるように環境構築を図っている。

(委員) そういった取組を検証する仕組みはあるのか。

(事務局) 宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略の一期目が終わったところ。結果的に社会増には至っておらず、平成 30 年度は減少幅が縮小したが、令和元年度は大きく減ってしまい、自然減も続いている状況。ただ取組の成果として、子どもの数については若干増加した層もでている。次回改めて説明させていただきたい。

(委員) 社会増減 0 というのは大きな目標であるので、それ相応の施策が必要であると思う。産業を興すとか、近隣の市町村と比較して環境が良いということがないと実現できないと思う

が、果たして宇治市が今そのような状況なのか。目標を立てる段階ではいろんな検討をされてきたかと思うが、実際の施策が本当に目標に繋がっているか、どの程度効いたのかという部分を測る仕組みはあるのか。次回以降で構わないのでその影響の部分も踏まえて、ご説明いただきたい。

(委員) 水道事業や下水道事業といった特別会計の資料と人口ビジョンの資料を次回お願いしたい。

(事務局) 承知した。次回説明をさせていただく。

(委員) 新型コロナウイルス感染症の影響も反映された財政状況はどのように見通しているのか。

(事務局) 中期的な見通しは財政健全化プラン策定時に出している。毎年の部分については、現在予算査定をしており、年末年始にかけて次年度の予算を固めていく作業をしていく。今回決算をベースに推移予測は不可能ではないと思われる。

(委員) その資料はあるのか。

(事務局) 会計ごとの今年度の令和元年度決算と今年度の令和 2 年度予算は提示が可能。次年度については税制改正等の不確定要素もあるので、お示しするのが難しい。

(委員) 新型コロナウイルス感染症の影響で観光客は減っているだろうし、市民の所得も減っていることだろうと思うので税金も減少が見込まれるのではないかと。昨年の歳入実績は参考にならないのではないかと。

(事務局) 市民税は前年の収入をもとに課税するので、今年の収入減が税金に影響するのは令和 3 年度になり、タイムラグが生じる。収納率が悪化しているかどうかぐらいは現段階で分かるが、税金のパイが小さくなったかどうか分かるのはどうしても 1 年後になってしまう。どの程度の資料を提示できるか分からないが、なるべく新鮮な情報で新型コロナウイルス感染症の影響を反映したものがあれば次回お示ししたい。

(委員) 令和 3 年度固定資産税の減免や宇治市の中小企業における売上減少に関する情報は入ってきているか。

(事務局) これからである。どこまでお示しできるか分からないが、商工会議所にも相談させていただいたうえで、回答したい。

(審議終了)